



夜須町西山の夜須八幡宮では早春の祭りとして弓を使った祭りが行われています。今回は県の三大弓行事にも選ばれている「百手祭」を紹介します。

牛鬼退治したことが由来となる？

今年で四一九九年を迎えるこの祭りにはその昔、弓の名手近森左近が牛鬼を退治したことに由来する説と、射術家(武家)の祭祀説があります。的の中心に書かれる「鬼」の字には牛鬼退治の意味が込められているそうで、天下泰平・五穀豊穰・家内安全を願う氏子の想いが今なお、大切に受け継がれています。

選ばれた射手により、2日かけて奉納される矢は一千八百十六本。烏帽子に素襖(上着)、長袴の姿で射場に立ち、近森左近にあやかった神矢「や合格祈願などの、願込め矢」、昨年の「願解き矢」などたくさん、の想いがこもる矢を放ちます。

総勢12人の射手の中には40年のベテランもいれば、始めて2、3年の新人もいます。



大的の中心には上から墨を塗るため鬼の字は見えない



「三三九度の盃」の儀式も指導



士式にのっとり、弓射の式を取り仕切るのには麻上下を着た黒岩信隆さん。頭の中には矢を射る時の姿勢や腕の位置、「三三九度の盃」の儀式など、祭りの全容が入っています。弓道の監督として団体へ参加した実績もあり、以前は射手を務めていましたが、今は退き、



「矢振り」をして射手の順番を決める黒岩さん

んが、射手志願者は少なくありません。前組に6人、後組に6人が並び、交代で約28m離れた大的や半紙、余興の扇子などをねらう凜とした姿に、周りの空気が張り詰めます。今年以前、女性として初めて射手を務めた宮崎あゆみさんも参加しました。

今年は2月21日・22日に行われた百手祭。氏子みんなの協力で例年どおり執り行われ、伝統を受け継ぎました。「保存会のような組織的なものは無いけれど、射手のみんなや地域全体がこの祭りを大切に思ってくれている。暮らしの中に根付き、生活と共にある祭りだからこそ、射手が氏子みんなの願いを込め、一矢一矢を射るのだから」と黒岩さんは、頼もしいげにそう話してくれました。

編集後記

駅伝大会、赤岡橋でシャッターチャンスをと。ランナーは、歩道を走ると思いきや車道！慌てて、気が付けば…幸いカメラは無事で一安心でした。(松)

「こらえないかん」と会長さん。お披露目で体を広げた百畳風は青い空に舞いたそう。その大きな体を置む時、会員皆さんの、こらえた想いをしっかりと包んだように見えました。(井)

香南市1歳の誕生日を記念して今月号はカラー表紙。やっとよちよち歩きはじめたばかりの香南市。これからはたくさんの思い出でアルバムを埋めたいですね。(N)

おわびと訂正

《2月号》町内駅伝の香我美町内駅伝のピッター賞は18秒差で1位は、香南消防本部でした。

《2月号》まちの話題の三世代交流凧揚げ大会の弘田秋雄さんは大会審査委員長が正しい役職です。おわびして訂正いたします。

《広報へのメール》

kouhou@city.koohi-konan.lg.jp
《香南市のホームページ》
http://www.city.koohi-konan.lg.jp